

# 日本の軍人の数 ～軍人の数から戦争をみる～

初稿：2012年3月2日

改訂：2015年7月27日

東京 竹田かずき

kazuki0517@gmail.com

## ●《徴兵制と民主主義》から派生して

私は2007～2012年にかけて、授業書《徴兵制と民主主義》を作りました（月刊誌『たのしい授業』NO.396（仮説社）に掲載）。これは、「徴兵制の国は今いくつあるのか」ということから始まり、徴兵制の歴史や、そこからは制して「民主主義、民主国家とはなにか」を考える授業書です。

私は、この授業書を作る中で、「日本で、徴兵制によって軍人となった人は、どれくらいいたのか」「また、その人数は、時期によって変化したか」ということが気になっていました。

徴兵制は「国が、国民に兵役の義務を課す制度」です。義務ですから、国民全てに等しく課せられるものです。しかし、実際は「徴兵検査は受けたものの、身体の状態が不適合とされた人」や、「学業を優先させるため徴兵期間を延期した人」などがいます。それどころか「徴兵検査に合格した人でくじ引きを行い、当たった人のみが徴兵された」という時期もあったそうです。そのように「年によって、揺れ動く人数」であるため、その実態が知りたいと思ったのです。

しかし、この人数はすぐにはわかりませんでした。戦前に出版されていた『日本帝国統計年鑑』（内閣統計局編）を見ても、時期によって載っていたり、載っていなかったりとまちまちなのです。

ただ、このことは、授業書の本筋にはあまり関わらないことでした。そのため、「あとで、わかる資料が出てきたら調べよう」と思っていま

した。

## ●軍人の数のグラフ

このことは、長い間ずっと棚につってそのままでした。しかし、ふと、「〈徴兵制に限らない、軍人の数〉というものなら、だいぶわかっているのではないか？」と気づきました。さっそく、『数字でみる日本の100年』の改訂5版と改訂6版（矢野恒太記念会）を見てみると……ありました！「旧陸海軍兵力と装備」として、陸軍・海軍の軍人数（兵員数）が載っていました。少々抜けている期間があるものの、これを元にすれば、長期間での「戦前の日本の軍人の数」のグラフを描くことができそうです。

軍人とは、「軍籍に属する人の総称」です。将校や、志願兵も入りますから、この中で、「徴兵制によって軍隊に入った人数」がどれくらいかは分かりません。ですから、私が「描いてみたい」と思ったグラフとは少し違います。ただ、これはこれで、何かが見えてくるグラフになるかもしれません。よろしければ、お付き合いください。

### 【問題1】

明治二年、兵部省（その後、1972年に陸、海軍省となる）が設置され、日本に近代的な軍隊ができました。明治6年（1873年）には、徴兵令が公布されました。

それでは、明治時代の日本の軍人の数は、どれくらいだったと思いますか。ただ、明治時代は長いので、ここでは、議会ができる直前の明治18年（1885年）のときのことを考えてみることにします。

ただ、このようなことを聞かれても「一体何を元にして考えればいいのだろう」と戸惑う人もいるでしょう。そこで、現在の自衛隊員の人数を参考にしてみることにします。

現在（2011年）の自衛隊員の数は23万人です。日本の人口は、1億

2700 万人ですから、人口の 0.2% が自衛隊員です。だいたい「550 人に 1 人は自衛隊員」というわけです。「とてもたくさんいるわけではないが、そう珍しいわけでもない」という割合だと思います。

議会ができる直前の明治 18 年（1885 年）の日本の人口は 3800 万人でした。そこから、「そのときの日本の人口に占める軍人の %」を選択肢に入れてみました。

明治 18 年（1885 年）の軍人の数（割合）は…

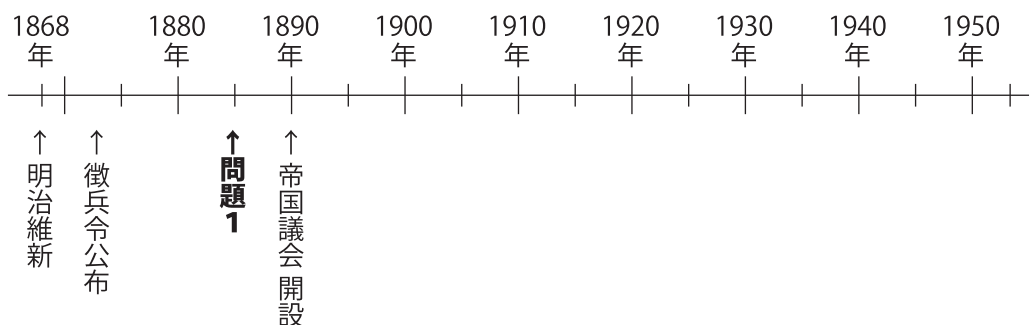
- ア．10 万人くらい・人口の 0.2% くらい  
(今の自衛隊員の割合と変わらない)
- イ．50 万人くらい・人口の 1% くらい  
(今の自衛隊員の割合より多い)
- ウ．2 万人くらい・人口の 0.05% くらい  
(今の自衛隊員の割合より少ない)
- エ．そのほか

※この人数は、注釈がない限り、すべて陸軍と海軍を合わせたものです。

※軍人・軍属の合計です。

※軍人の数のデータは、すべて『数字でみる日本の 100 年』改訂 5 版、6 版（矢野恒太記念会）を元にしてしています。

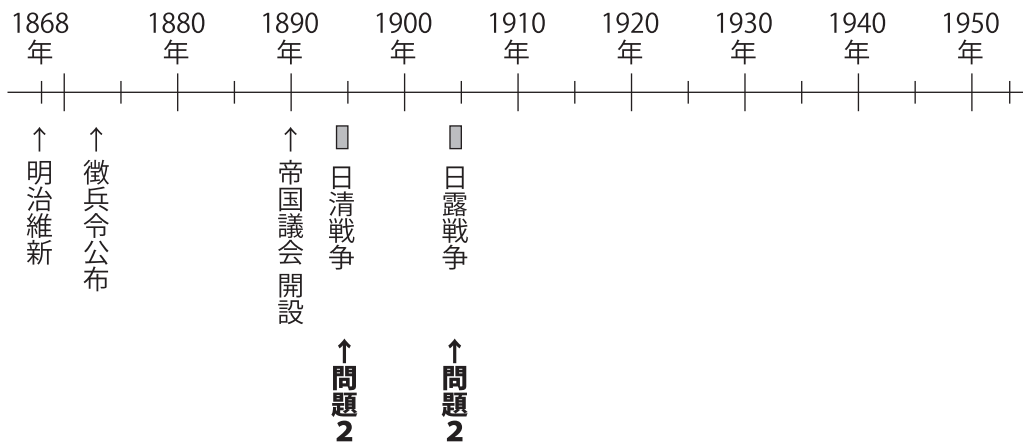
### ●参考



## ●明治 18 年の軍人の数は 7 万人，人口の 0.2%

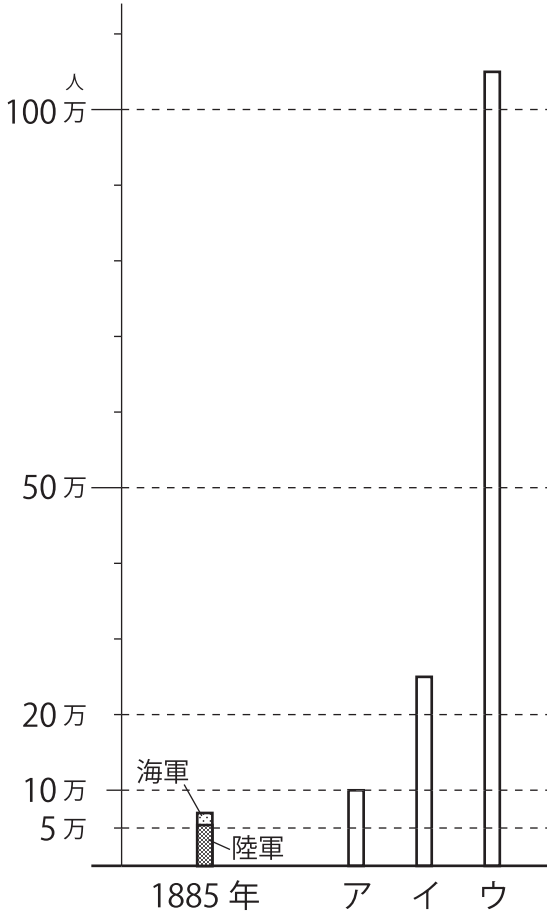
明治 18 年(1885)の軍人の数は,7 万人でした。人口に対する割合は,だいたい 0.2% です。今の日本の自衛隊員の割合とほとんど同じです。私は,なんとなく「昔は軍人の数が多かったのではないか」と思っていたので,この結果は意外でした。

しかし,もしかしたら,この一年が特殊な年ということもあります。また,戦争のころになると,大きく変化しているかもしれません。そこで今度は,日清戦争(1894~1895年),日露戦争(1904~1905年)のころを見てみるとどうでしょうか。



**【問題2】**

日清戦争のころ（1895年）と、日露戦争のころ（1905年）、日本の軍人の数はどれくらいだったと思いますか。



- ア. 10万人くらい  
(1885年とあまり変わらない)
- イ. 20～30万人くらい  
(1885年の3倍くらい)
- ウ. 100万人以上  
(1885年の10倍くらい)
- エ. そのほか

日清戦争 (                    )  
日露戦争 (                    )

## ●日清戦争は、15万人。日露戦争は104万人。

右のグラフをご覧ください。

1895年の軍人の数は15万人、1905年は104万人でした。

このグラフを描きながら、私自身は、「えー！」と声をあげてしまいました。

「きっと、戦争になったら、臨時召集などもあって、軍人の数は増えるだろう」と思っていたのです。だから、日清戦争と日露戦争でこうも差があるとは思わなかったのです。

データがない期間があるので、グラフが抜けている箇所がありますが、それでも、「日露戦争のときは、それまでにない数の人が、軍人になっている」と言えるでしょう。

一方、日清戦争は、1885年と比べると2倍くらいの数にはなっていますが、日露戦争ほど極端に増えていません。

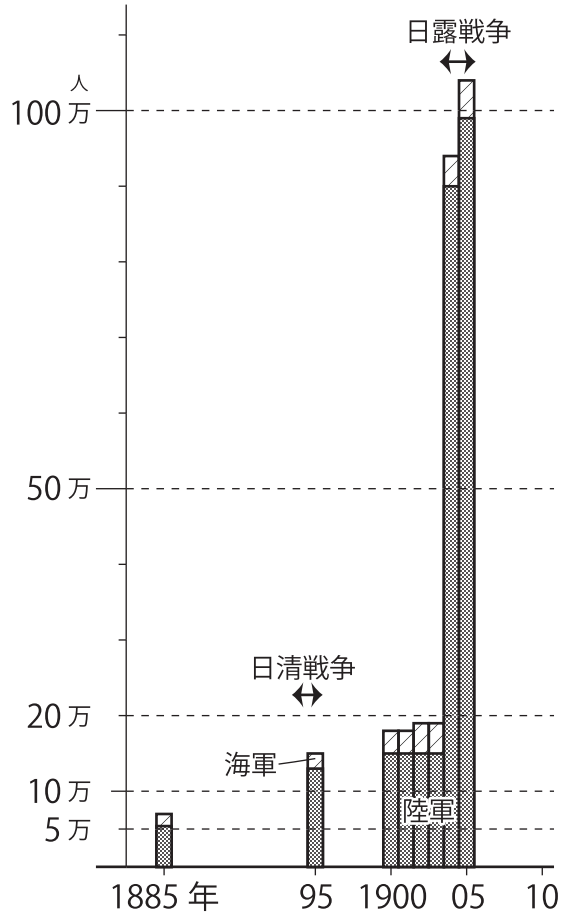
「日清戦争、日露戦争について、もっと詳しく知りたいなあ」と、板倉聖宣・重弘忠晴『日本の戦争の歴史』（仮説社1989）をめぐってみました。そこには、日清戦争と日露戦争の主要な戦場が載っていました。

日清戦争は、日本と清（今の中国）の戦争でしたが、戦場は朝鮮（韓国）でした。日露戦争は、日本とロシアの戦争でしたが、戦場は清国（中国）でした。どちらも、他の国の土地が戦場だったのです。

この2つの戦争は、「明治時代の戦争」として、一緒に語られること

日本の軍人の数（1885～1905年）

データ出典：『日本の100年』矢野恒太記念会



が多いような気がするのですが、「軍人の数」という点から見ると、大きな違いがあるようです。

### ●平時の軍人の数

ところで、日露戦争が終わったあと、軍人の数はどうなったでしょうか。日露戦争は1904（明治37）年に始まって、1905（明治38）年に終わりました。その後、1914（大正3）年に今度は第一次世界大戦が始まるのですが、それまでの期間（戦争でない期間＝平時）の軍人の数はどれくらいだったと思いますか。

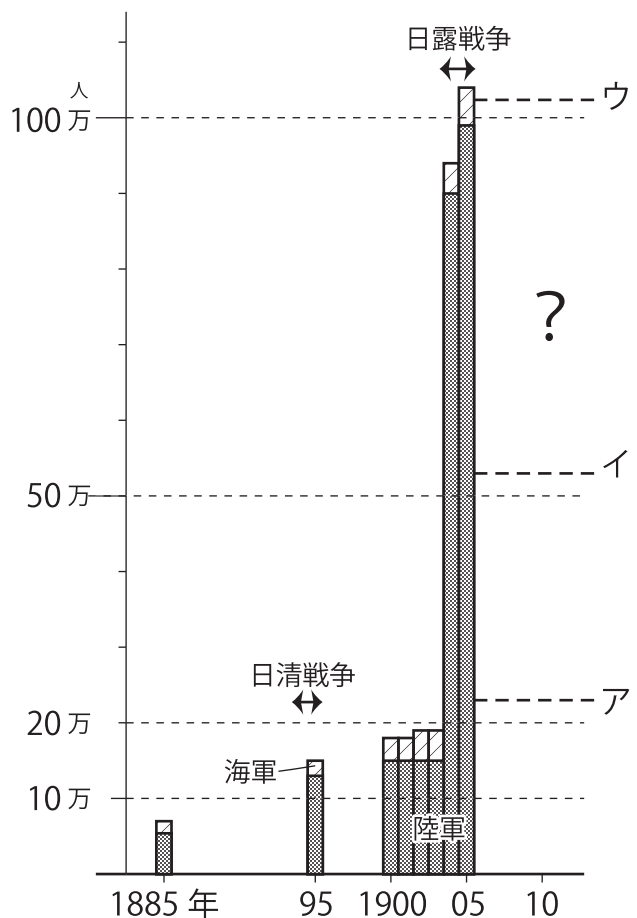
### 【問題3】

1906～1913年の日本の軍人の数はどれくらいだと思いますか。

- ア．20万人くらい  
（日露戦争の開始前くらい）
- イ．50万人くらい  
（日露戦争のときの半分くらい）
- ウ．100万人くらい  
（日露戦争のときと変わらない）
- エ．そのほか

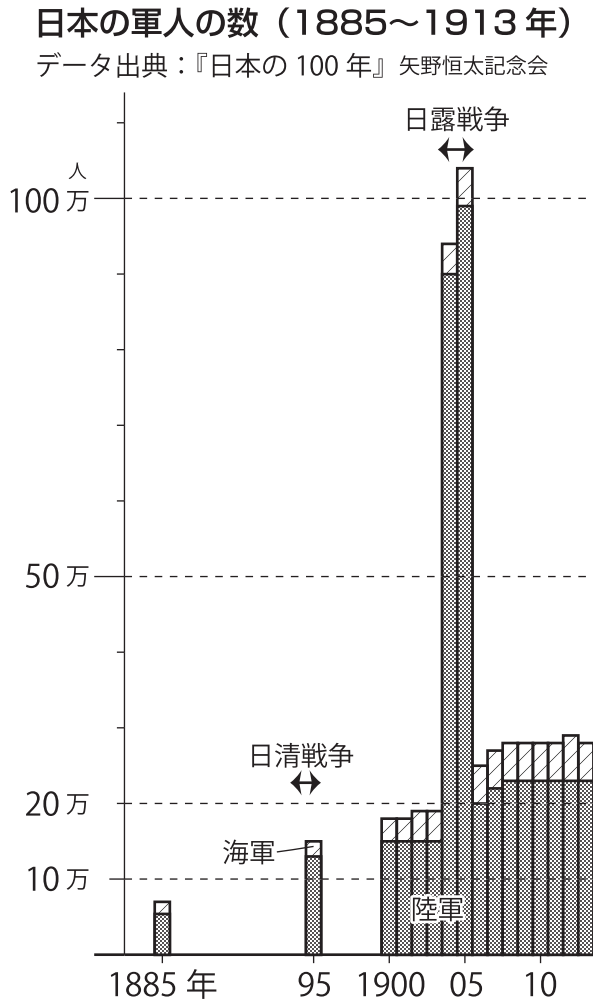
日本の軍人の数（1885～1913年）

データ出典：『日本の100年』矢野恒太記念会



## ●日露戦争～第一次世界大戦の間の軍人の数

次のグラフをご覧ください。



1906（明治39）～1913（大正2）年のころ、軍人の数は、だいたい30万人くらいでした。日露戦争直前よりは増えたものの、日露戦争のときの軍人の数からは、減っています。

先ほども少し書きましたが、戦争時には「動員」と言って、臨時の軍隊召集が行われることがあります。通常の徴兵期間を終えた人も、もう一度呼び出されることがあるのです。また、このようなときは、徴兵検査後のくじ引きの当選率が高くなります。そのように、平時と戦争時で、軍人の数を調整していたのです。

## ●第一次世界大戦のときの軍人の数

日露戦争の10年後には、第一次世界大戦（1914～1918年）が occurs ます。そのころの軍人の数はどれくらいだと思いますか。

### 【問題4】

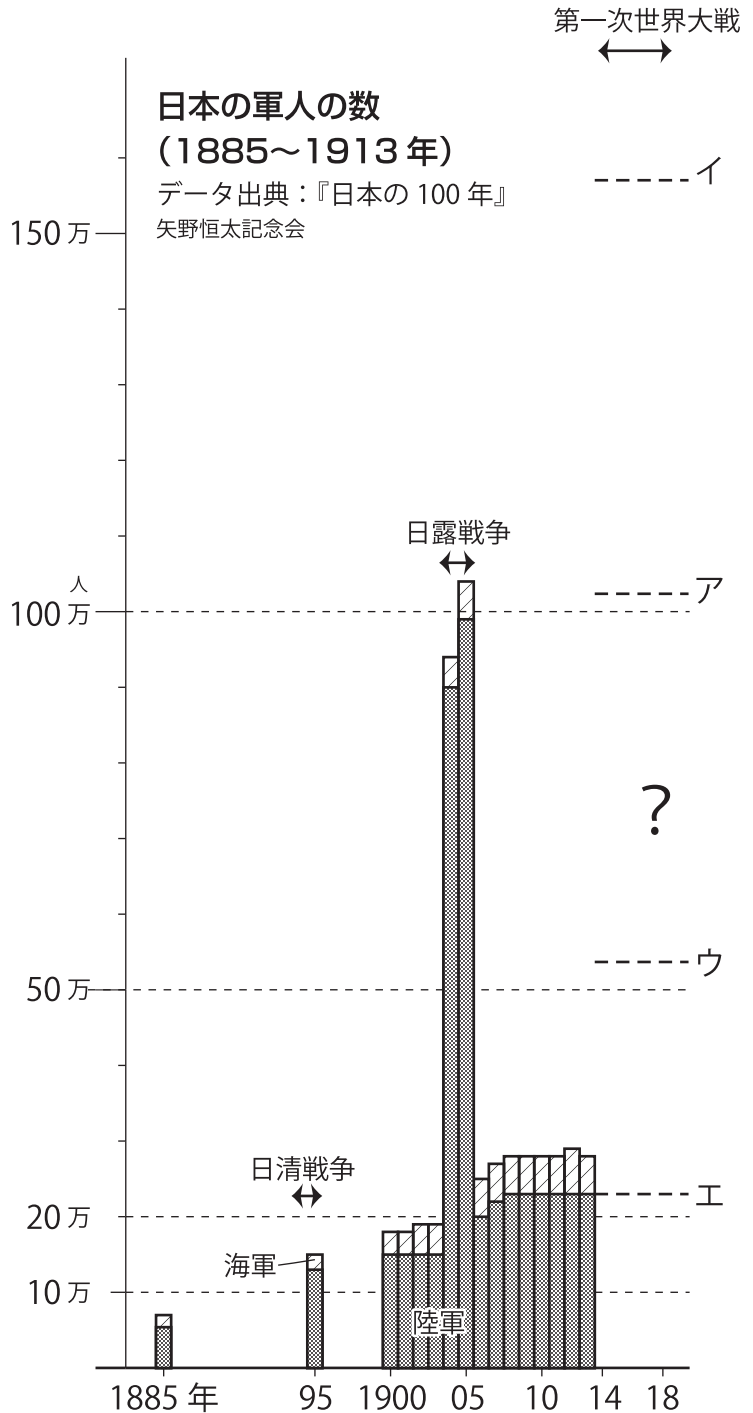
1914（大正3）～1918（大正7）年の日本の軍人数は、だいたいどれくらいだったと思いますか。

ア．100万人くらい（日露戦争と同じくらい）

イ．150万人以上（日露戦争より多い）

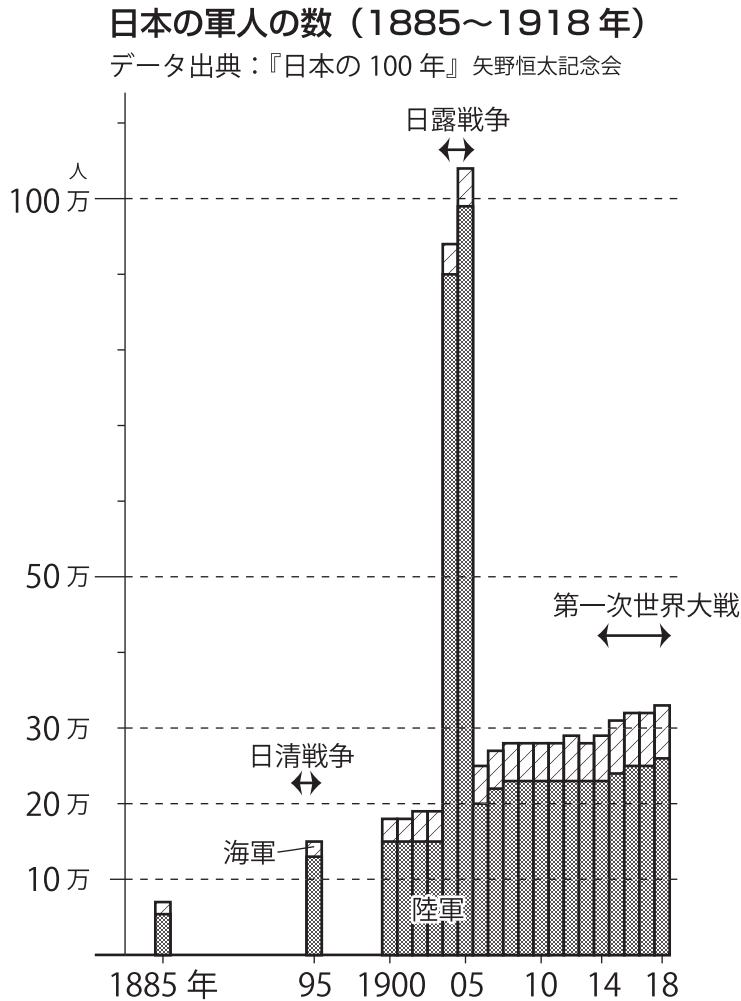
ウ．50万人くらい（平時よりは多いが、日露戦争ほど多くはない）

エ．20万人くらい（日清戦争や、平時と同じくらい）



## ●日露戦争～第一次世界大戦の間の軍人の数

次のグラフをご覧ください。



1914（大正3）～1918（大正7）年の日本の軍人数は、だいたい30万人くらいでした。日清戦争のときよりは多いものの、日露戦争に比べると、ずいぶん少ない数です。

そもそも、第一次世界大戦は、「欧州大戦」とも呼ばれており、主な戦場はヨーロッパでした。日本も参戦し、戦うこともありましたが、（日本にとっては）それほど大きな戦争でなかったのでしょうか。

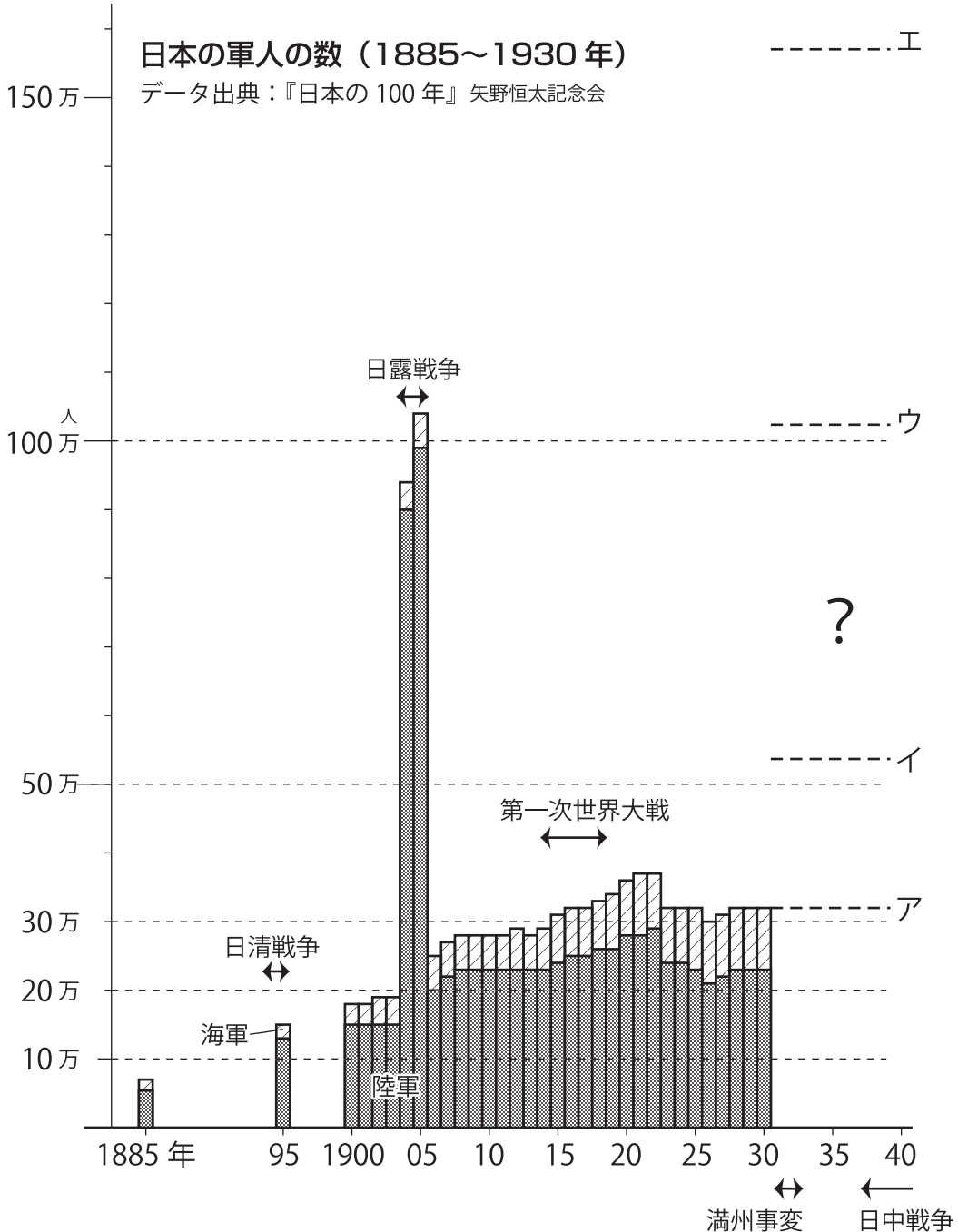
なんだか、軍人の数で、その戦争の性質がみえてくるような気がします。



## ●十五年戦争と軍人の数

第一次世界大戦が終わった後も、日本の軍人の数は、だいたい30万人くらいでした。(下のグラフ参照)

そして、今度は、1931(昭和6)年9月～1932(昭和7)年2月に満



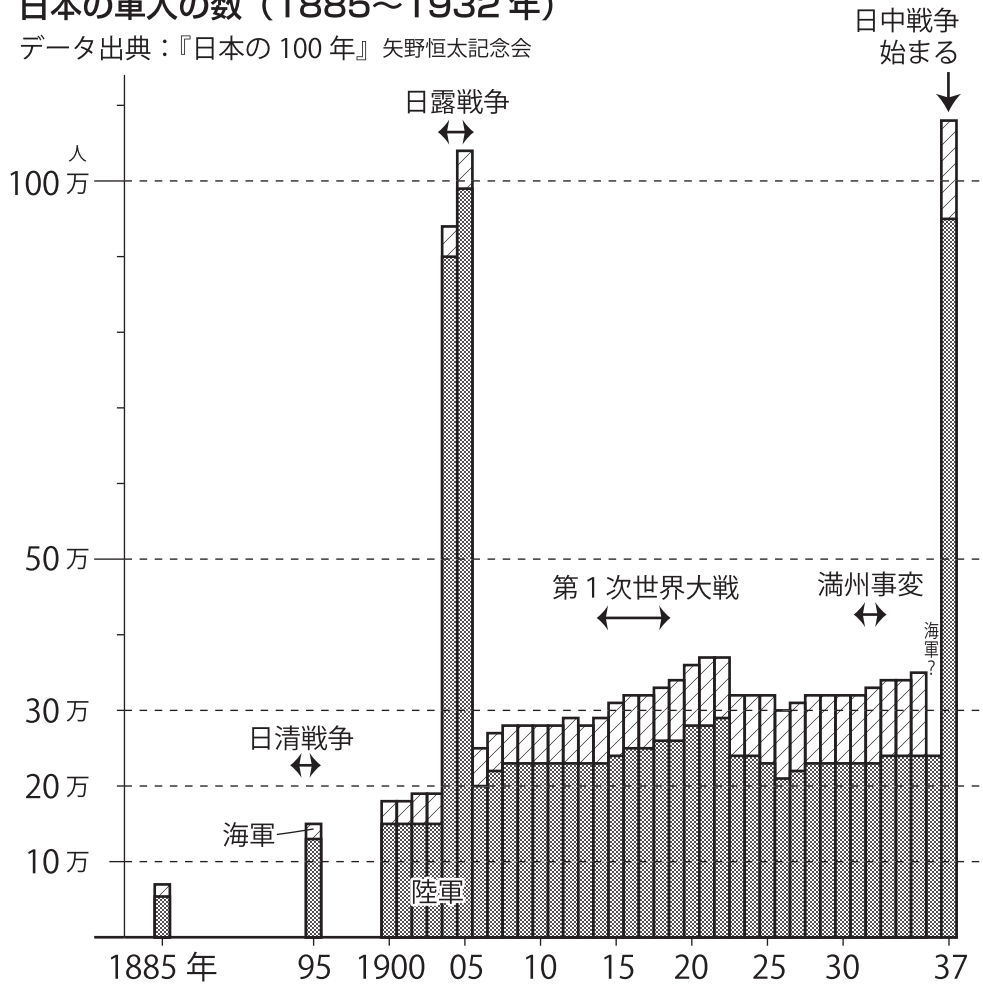


## ●十五年戦争と軍人の数

次のグラフをご覧ください。

### 日本の軍人の数（1885～1932年）

データ出典：『日本の100年』矢野恒太記念会



1931（昭和6）年の軍人の数は32万人、1937（昭和7）年は、108万人でした。

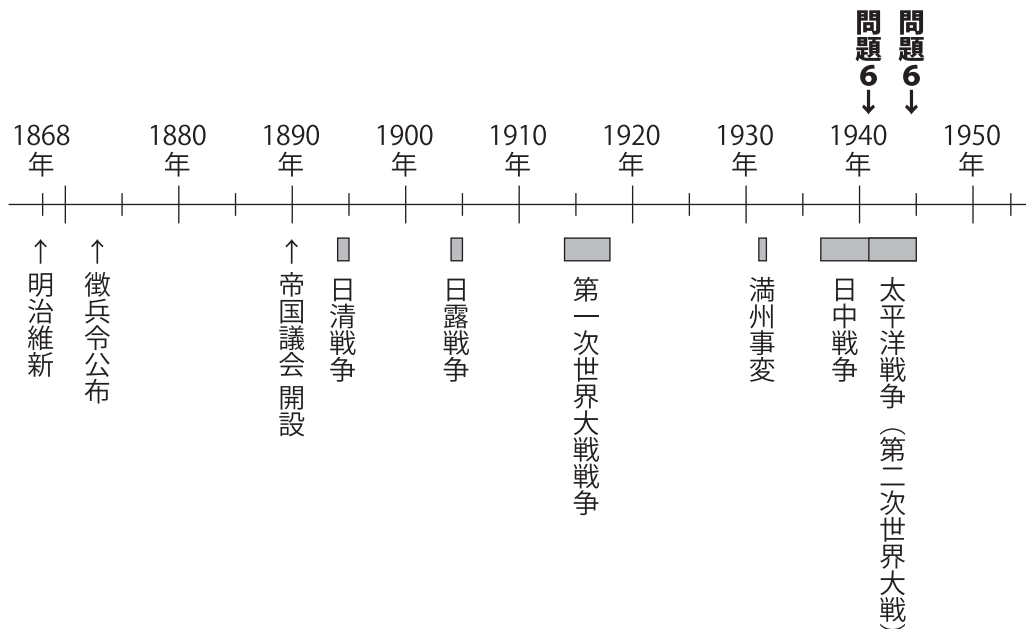
私は、これを見て、またしてもびっくりしました。「十五年戦争」と呼ばれているのに、その始まりである満州事変の前後は、特に軍人の数は増えていません。しかし、日中戦争が始まった1937年に一気に増えています。日露戦争と同じくらいです。（1936年は、海軍の人数がわからなかったため、陸軍の人数のみ描きました）

私は、満州事変のことは、「満州で起こった」とか「それをきっかけに、満州国ができた」というくらいしか知りませんでした。それどころか、日中戦争との違いもよくわかっていませんでした。しかし、今回グラフを描いてみることで、「この2つは、全然質の違うものなんだ」ということが見えてきたように思えます。

## 【問題6】

十五年戦争の後半，日本が第2次世界大戦に参戦しました。それは，1941年12月のことです。そして，その後，第2次世界大戦（及び日中戦争）に敗戦したのは，1945年8月です。それでは，そのころの日本の軍人の数はどれくらいだったと思いますか。

※右ページのグラフは，今までのグラフよりも背を50%縮めています。



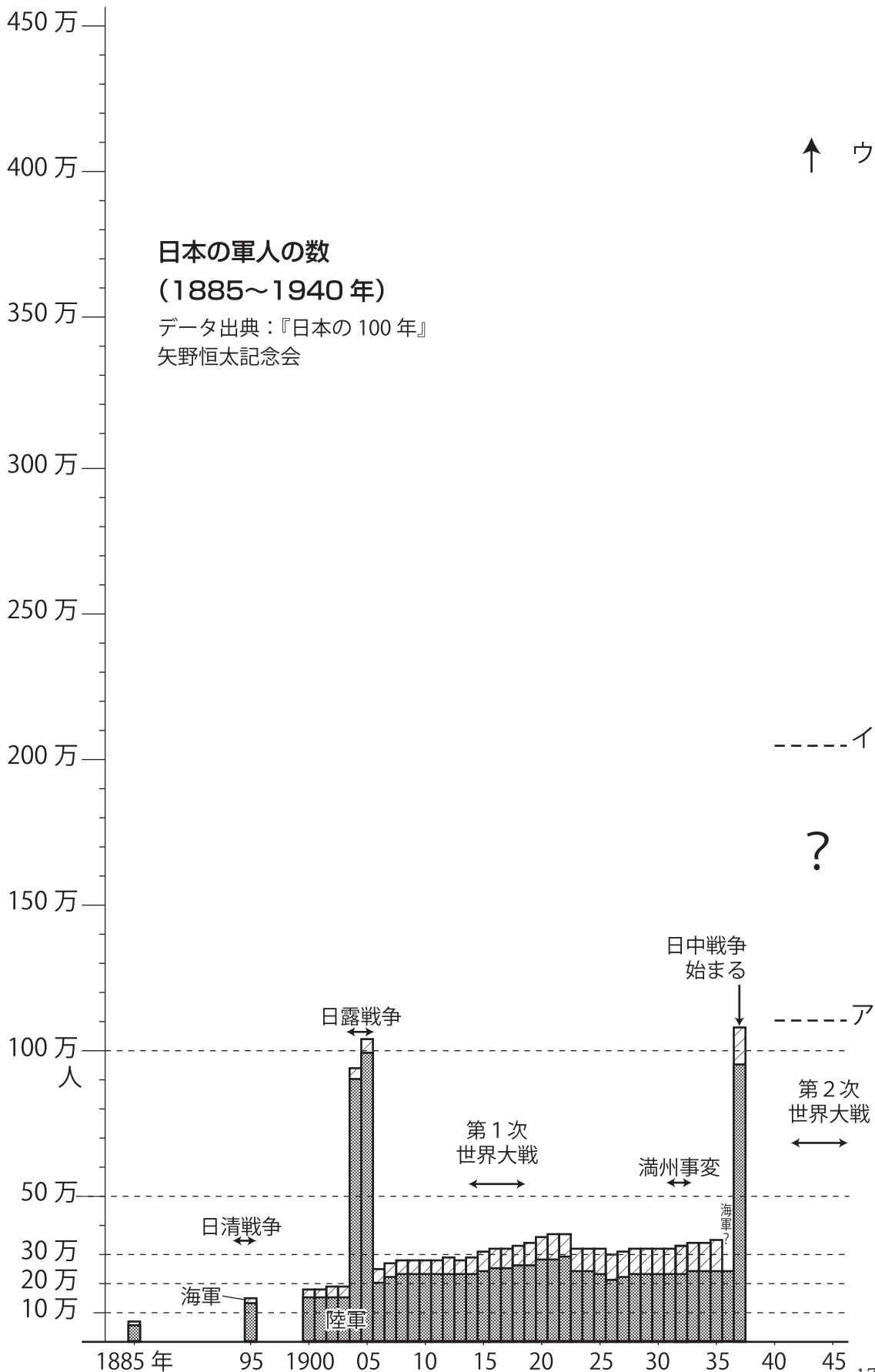
- ア．100万くらい（日中戦争の始まりと同じくらい）
- イ．200万人くらい（日中戦争の始まりの2倍）
- ウ．500万人以上（日中戦争の始まりの5倍以上）
- エ．そのほか

第2次世界大戦 参戦 1941～1942年（            ）  
敗            戦        1945年            （            ）

↑ ウ

### 日本の軍人の数 (1885~1940年)

データ出典：『日本の100年』  
矢野恒太記念会



-----イ

?

-----ア

右ページのグラフをご覧ください。1941（昭和16）年は、240万人、1945（昭和20）年は、830万人でした。※右ページのグラフは、17ページのグラフよりも、さらに背を50%縮めています。

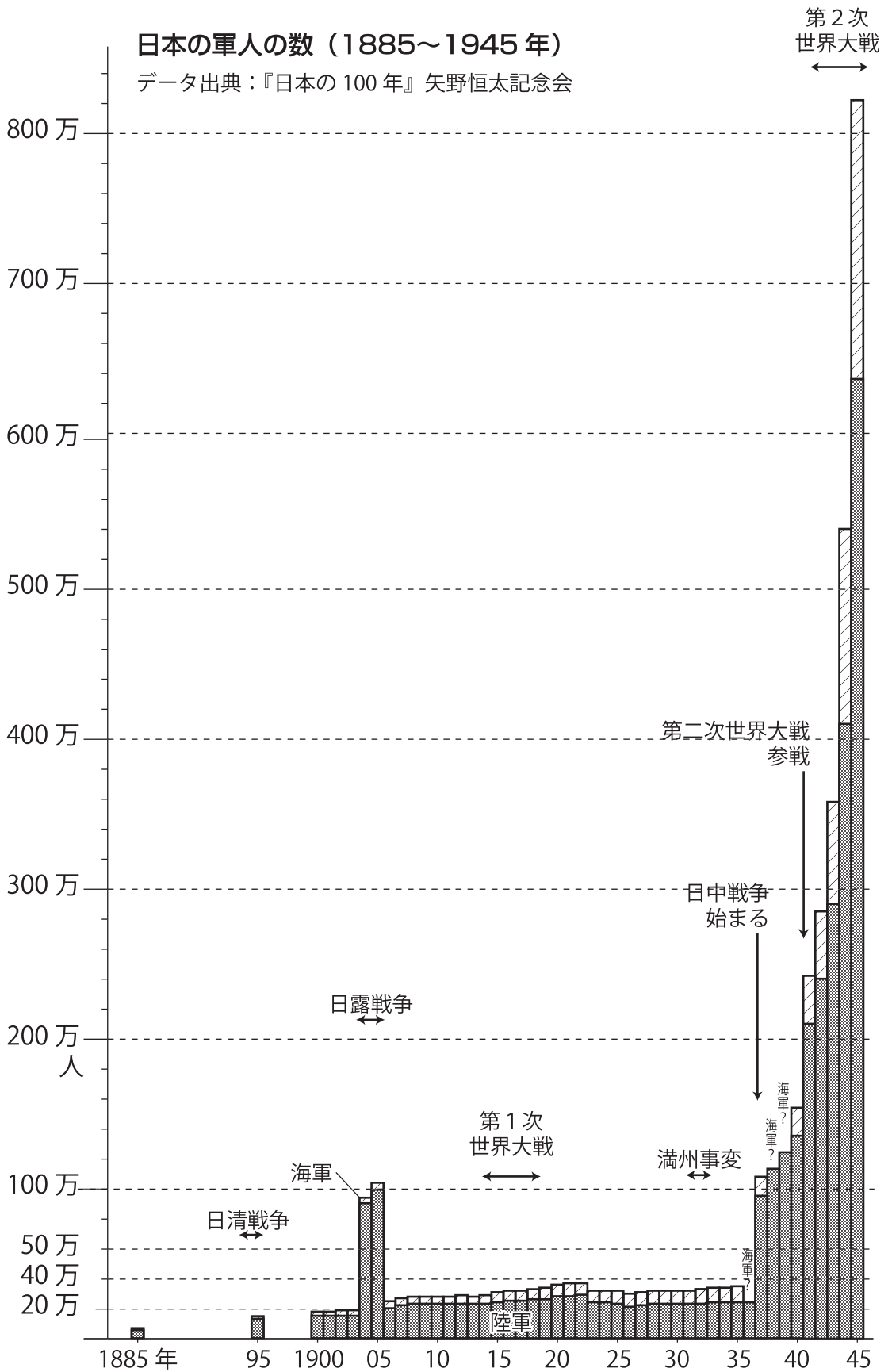
私は、グラフを描いて非常に驚きました。「第二次大戦は大きな戦争だったから、軍人もさぞかしたくさんだったろう」とは思っていたのですが、それまでの戦争に比べて、かなり突出した多さだったからです。

1937年に日中戦争が始まった後、じわじわと軍人の数は増えていきます。しかし、1941年になるとまた一段と増え、200万人以上になっています。そして、その後もさらに増え続け、敗戦の年は陸軍だけでも600万人。海軍を合わせると800万人を超えています。

「戦争」というと、1945年のことが語られることが多いですが、このグラフを見ても、その年の特異性がよくわかる気がします。同じ「戦争」といっても、軍人の数にはこんなに違いがあったのです。

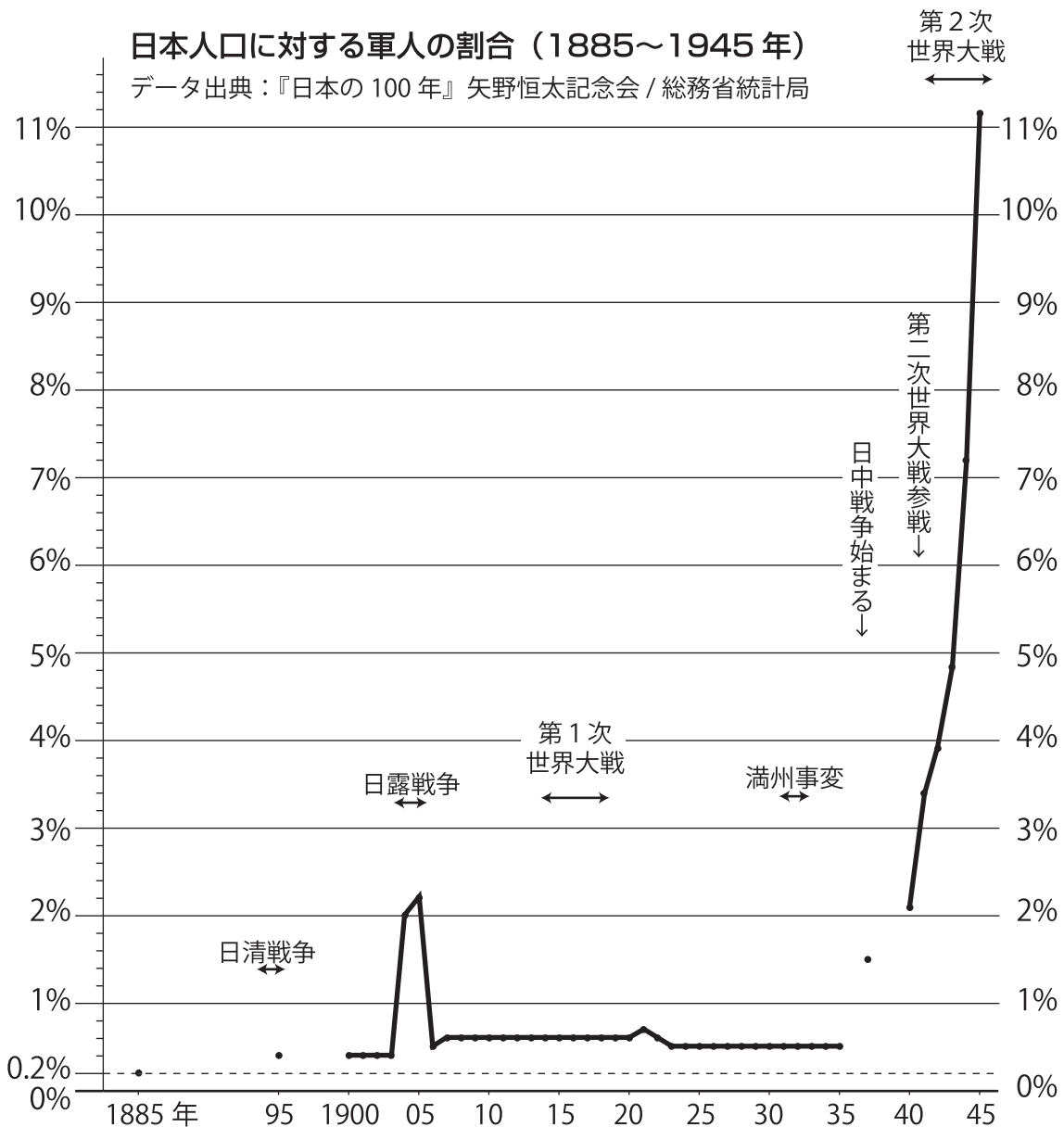
# 日本の軍人の数（1885～1945年）

データ出典：『日本の100年』矢野恒太記念会



## ●人口における軍人の割合

そういえば、私は最初に「今の自衛隊員は、人口の0.2%」と書きました。そして、「1885年の軍人の数も、そのころの人口の0.2%」でした。それでは、人口に対する割合(%)をグラフにしてみるとどう変化したのでしょうか。描いてみたので、見てみてください。下のグラフです。



これは、「日本人口に対する軍人の割合」です。一番上の目盛りは、「100%」ではなく、「11%」です。ご注意ください。

1885年は、0.2%でしたが、日清戦争のころに0.4%になり、日露戦争では2%を超えました。そのあと、日中戦争が始まるまでは、だいたい0.6%くらいを保っていました。

日中戦争が始まると、一気に跳ね上がり、1.5%となりました。そして、敗戦の年（1945年）には、11.5%にもなりました。

これは、全人口……つまり日本の老若男女すべてに対する割合ですから、「若い男性のみ」としたら、もっと多くの割合の人が、軍人となっているわけです。1941～1945年の戦争は、とくに「若い男性が、根こそぎ軍隊に行った」というわけです。

## ●党派によらない、戦争の姿

これで、「日本の軍人の数」はおしまいです。最初は「徴兵制で軍隊に入った人の数はどれくらいかな」というところから始まったのですが、思いがけず「軍人の数から、戦争の姿が見える」となったと思うのですが、どうでしょうか。

今回はとくに、途中で紹介した板倉聖宣・重弘忠晴『日本の戦争の歴史』（仮説社1989）にならって、「党派的な話題はせず、〈戦争の事実〉だけを取り上げよう」と思い、「なぜ戦争が起きたか」などには触れませんでした。しかし、グラフを描き上げた今、「このような〈数量による歴史〉こそが、歴史を語る上での基礎的な知識になるのではないか」と強く思っています。

私は、もともと歴史をよく知らない人間で、「満州事変」も、その言葉くらいしか知りませんでした。「日中戦争(支那事変)」などもそうです。しかし、今回グラフに描いてみて、「ああ、そういうことなんだ」とやっと納得することができました。

今回のグラフは、「軍人の数がどうだったのか」ということでしかないのですが、それだけでも「どんな戦争だったのか」というイメージができるようになったと思うのです。

戦争というのは、デリケートな話題でもあります。また、強い関心のある話題でもあると思います。だからこそ、まずは、このような「基礎知識」が重要ではないかと思います。今回のグラフが、戦争を考える一助となれば幸いです。

## ●宣伝● 新刊できました！ 『グラフの世界へようこそ！』

あたらしい世界をひらく〈グラフ〉の話』

ページ数：116 ペ 値段：1500 円

竹田かずき



これから始まるお話は、ある中学生がグラフに巡り会うお話です。

私は、ずっと数字を扱うことは好きでなかったし、グラフは「さし絵のようなもの」と思っていました。けれど、ここでのお話のようなことを体験して、グラフが大好きになりました。それどころか、「グラフを描いて考えると、思いもよらない発見がある」「グラフはものを考える時になくてはなら

ない」と思うようになりました。そこで、そんな感動を多くの人に伝えたいと思って、このお話を書きはじめたのです。